

第6回 にぎわい創出検討部会

令和4年6月9日(木) 13:00～15:30

常盤通り

出席者 部会長 + 部会委員 12名

00 今回の”まちあるき”の目的は？

ウォーカブル、即ち「居心地が良く歩きたくなる」まちをつくるためには、常盤通りだけで完結することはできない。雰囲気の良い通りをつくることは勿論のこと、エリア全体に行きたい目的地を増やしていかないとけない。

真締川 + 新庁舎広場 + 井筒屋跡地 + 琴芝街区公園 + 商店街等の地域特性を読み取り、それに沿ったエリア別のビジョンと方針を踏まえ、沿道建築(民間、公共)との関係を考える。

第6回となる本会では、集まった「にぎわい創出検討部会メンバー」と「山口大学の学生」が2つの班に分かれ、それぞれ「ふるさとコンパニオンさん」の常盤通りに関する説明を受けながら常盤通りを歩き、7箇所の公園的歩行空間について実際にその場所を見ることで求められるもの・感じたことなどをそれぞれが書き出した。

——— 今回の”まちあるき”の議題 ———

常盤通りで”公園的歩行空間”に求められる空間を考える

まちあるきで7つの公園的歩行空間に対して出た意見

これまで、7箇所の公園的歩行空間のコンセプト・ターゲットや必要な機能を考えてきた。

そこで今回は、実際にその場を訪れて歩き、歴史的な背景に関して知見を深め**妥当性**を改めて考えた。



1 ポスティビルド前

<若者が集える場所>

勉強+読書の後、外でリラックスできる場。芝生、屋外授業等できる場、屋外若者交流空間、テーブル、椅子

<商業の場>

買いたい物が買える。食べたいものが食べれる。マーケットと賑わい。
レッドキャベツがなくなって、買い物難民を改善し新しい空間となっている。

2 中津瀬神社前

<癒やしのリラックス・水の広場>

中津瀬神社の木陰を利用できる。神社との一体化による開発が面白そうである。水神様・パワースポット
落ち着いた空間・宇部市内から人が集まる

<子供が集まれる場所>

水神様の水を利用したシニア向けのカフェ・トイレの整備必要。
トイレがきれい・鳥居が全て見えたほうが良い。狛犬ではなく錦橋にあった「ライオン」である

3 KIDS WRAP

<子供・子育て中心の場所>

- ・子供が遊べてそれを親がゆっくり見ていられるような場所。丸太を使った小アスレチックやしゃぶしゃぶ池など
- ・キッズクラブと一体になって子供の遊具等の設置。芝生だけでも良いと思う。電気関係の調整BOXの撤去が必要ではないか？
- ・子供を中心に考える・ターゲット・利用者を絞って考え得ることが大切

<道路側に広い遊べるスペース>

休日とイベント時色々利用できる。アイスコーヒーが美味しかった
困っている子供だけでなく、いろんな子供や大人の交流の場。木曜日のワイワイしている 外も含めて、食べたり遊んだり

4

ヒストリア宇部前

<歴史的・戦前からの様々な文化交流スペース>

ヒストリアホールでのコンサート等を外からも見学できるように椅子を配置する。真締川公園をうまく利用する。文化の香りがするところで将棋や囲碁が外でできる

<新庁舎前と共通の関係性を持ったスペース>

まち歩きの出発点・歴史・文化の発信 / バリアフリー
残してよかった。屋上が気持ちいい、前の広場が良い信号が長い

5

新庁舎前

<未来ステージ = 常設ステージ>

真締川・新庁舎との関係性を考えたスペース。川の近くなので、ここで寝転がれるスペース、ステージイベントでできる場所

市民が気軽に使えるステージ。市・学校等の表彰式を屋外ですできるだけ行うこの周りで市民が気軽に見るスペース
大きな木を植えて影をたくさん作る必要性あり。芝を敷きイベントを行う等の公園にする。
毎週日曜日 市民ののど自慢大会。市民同士で Performance を発揮しマッシュアップする場所

<新庁舎前の広場、ヒストリア前と合わせると通りの中で一番広大なスペース>

3on3 のバスケ。スケートボード。ダンス。アスレチック。スペースが広く取れて色々可能性を感じる

6

旧・井筒屋跡地前

<核となる場所>

今年度解体。公共機能 + 民間機能

公共機能は子育て支援 + 交流 (レストスペース、コワーキングスペース、フリースペース) ・民間機能は飲食 + 物販

琴芝公園くずき? をなくす → 明るくなる。

< >

職員は市の OB の方にして管理事務所を設けるのはどうか? 屋上庭園化はどうか?

子育て、飲食、多世代交流スペースとして外に向けてテラスを建物中と外がつながるイメージ。

7

西京銀行建設地前

<チャレンジスペース>

民間がお店を作る努力をしてマルシェ的なお店を作り、コンテナショップ・チャレンジショップなどを短期安価で提供する

人を集めるには足りないような気がする。中津瀬神社から人が流れてくることに期待する

土日を中心に広場活用・平日はランチ営業など、短時間利用がメイン

しずかで、なにか寂しい。好きに公園化できる。自由度

<健康増進スペース>

旧井筒屋跡地と隣接していて子供 + 年寄りの遊ぶ、健康増進機能 / KIDS WRAP との連携も考慮

02 常盤通りで” 公園的歩行空間” に求められる空間を考える

常盤通りや周辺建築について現地を学び、7箇所の公園的歩行空間のコンセプトや求められる機能を再考する際の参考にする。

1

ポスティビルド

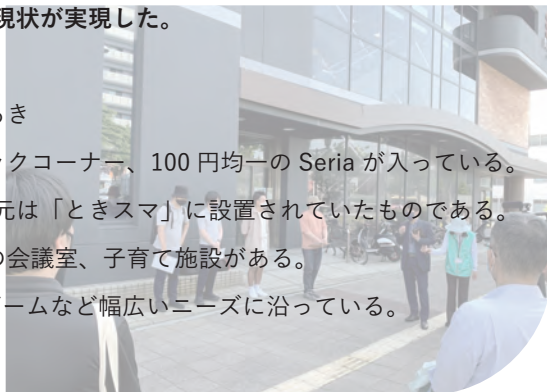
説明者：山本貴士さん

3年前にレッドキャベツが撤退したビルをなんとかしたいと前市長から依頼を受け、まるき（本社：小野田）に依頼した。すると「県内一店舗数の多い宇部市にはお世話になっておりますので」ということで入ってくれて、**学生が勉強できたり、誰でもくつろげるスペースを設けて今までにないマルキ作りを目指して現状が実現した。**

1F：入り口入ってすぐにくつろぎの場を整備されている。奥は、まるき

2F：ペットサロン、キッズスペース、ポスティカフェ、まちなかブックコーナー、100円均一のSeriaが入っている。キッズスペース・まちなかブックコーナーは自由に利用できて、元は「ときスマ」に設置されていたものである。

3F：若者フリースペースという中高校生限定のフリースペース、市の会議室、子育て施設がある。フリースペースは10~20時、勉強、読書、ハンモックで休憩、ゲームなど幅広いニーズに沿っている。



2

中津瀬神社

説明者：ふるさとコンパニオンさん

220年前、宇部の宇部かまぼこなどの源流は男山にあった。そして男山から居能方面に流れ出る川であった。そこで、今のナフコ方面に流れていた川をまっすぐ海側に流すために河川を整えた。

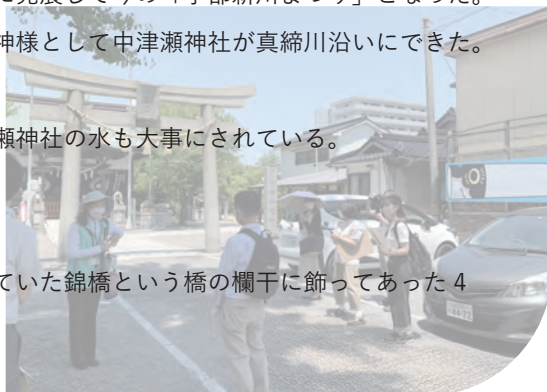
そこで、真ん中を締める川ということで、それからは「真締川」と言われている。

その後、川沿いで農機具を売ろうという人々が増えて「農具市」が祭りに発展して今の「宇部新川まつり」となった。まつりをするのに神様を祀っていないとバチが当たるということから水神様として中津瀬神社が真締川沿いにできた。

宇部は、かまぼこ・豆腐・日本酒など水にまつわる産物が多いので中津瀬神社の水も大事にされている。

中津瀬神社は、そのため宇部の新川まつりの中心である。

神社の狛犬は「ライオン」になっている。これは、昔の真締川にかかっていた錦橋という橋の欄干に飾ってあった4体のライオンをそのまま獅子として祀ったことである。



3

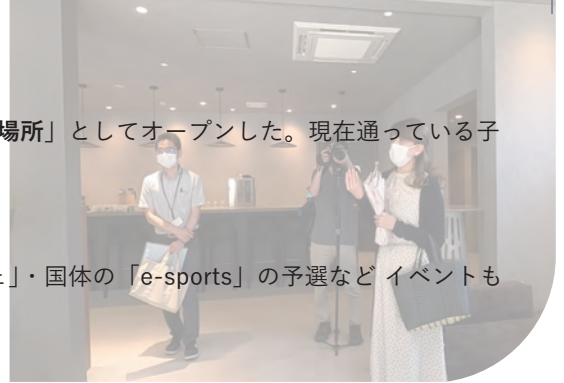
KIDS WRAP

説明者：金子淳子さん

金子院長の取り組みとしておこなっていた、「宅食」「こども食堂」などの取り組みをすべて集約して行える拠点をつくれたらということでした。

日本財団と宇部市によって援助を受けることで、「子どもたちの第三の居場所」としてオープンした。現在通っている子どもたちは20人ほどである。

6月からは、子供サポート事業を行う他、山大の哲学の先生「哲学カフェ」・国体の「e-sports」の予選などイベントも



4

ヒストリア宇部

説明者：ふるさとコンパニオンさん

建築家 村野藤吾による建築。市旧宇部銀行館

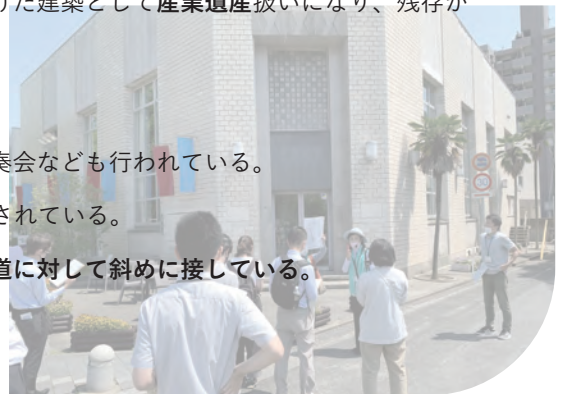
ふるさとの市街地活性化計画のもとでヒストリア宇部は戦火をくぐり抜けた建築として産業遺産扱いになり、残存が決まった。

天井の青と白の色合いがヒストリアの象徴。音響板も設置されていて演奏会なども行われている。

渡辺翁記念会館の2年後にできたが、日華事変の影響もありお金も縮小されている。

もともとは新川橋の斜の方向に道が続いていた。そのため以前の入口が道に対して斜めに接している。

銀行の夜間口も残っている。



5

真綿川公園

説明者：ふるさとコンパニオンさん

産業祈念像として、昭和32年に作られた。

宇部の産業を象徴するもので、宇部が村から「市」になった35周年目に作られた「祈念像」である。

他に祈念像というものは多くはなく、オブジェとは違った立ち位置である。

左 → 女性の像 手に持つ、りんごは「生産」を意味

右 → 男性の像 手に持つ、スコップは「労働」を意味



6

琴芝街区公園

説明者：ふるさとコンパニオンさん

もともとは、武道館があって幼稚園の運動場があった。

昔は、近くに覚法寺と真行寺がある。

- ・覚法寺：医大近くに移っていった。
- ・真行寺：明治終わりに上宇部から移ってきた。

こうした、真行寺が移ってくることから、このエリアが昔栄えて中心となっていたことがよく分かる。



7

旧井筒屋跡地

説明者：ふるさとコンパニオンさん

今年度から来年度にかけて「解体」が決定。

更地化し、新 公共施設+民間施設が建設予定。

- 公共施設→ **子育て支援**（デジタルコンテンツ・未就学児・親への援助・一時預かり）
くつろぎ交流（トキスマ・学習・コワーキング・多目的スペース）
- 民間施設→ **健康増進・飲食**にまつわる店舗をいれたい。

横の宝くじやさん縁起が良いので有名→ 井筒屋の上に稲荷神社が存在してその真下だから。



8

宇部市勤労少年会館

説明者：ふるさと
コンパニオンさん

宮大路動物公園跡地

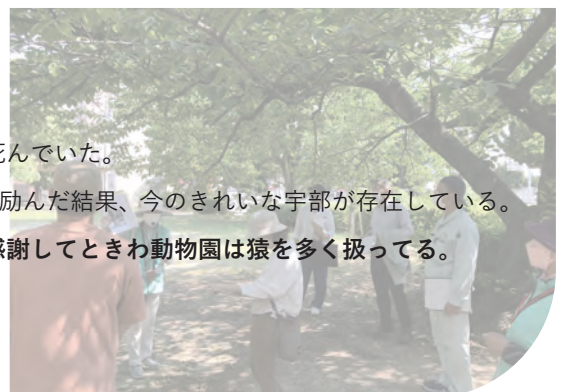
子どもたちに向けた戦後復興で山口で一番小さい動物園を作った。

→ 猿の死亡率が異様に高い。なにかおかしい。。

猿の死亡原因を医大病院などで調べると、猿は「目と肺」をやられて死んでいた。

原因は「灰」－“宇部は灰が降るまち”として根付いておりその改善に励んだ結果、今のきれいな宇部が存在している。

その後も、空気のきれいなときわ公園に動物園を移転後、お猿さんに感謝してときわ動物園は猿を多く扱ってる。





まちあるき中に出た、常盤通りの小話

01

澄川喜一 / Kiichi Sumikawa

東京スカイツリーのデザイン監修も勤めた。

宇部の彫刻、「反りのあるかたち」の作者

「反り」と「起り」について追求してきた

日本の反り→ 新川が始まりの反り、勤労青年会館で終わりの反りを表現している。



03

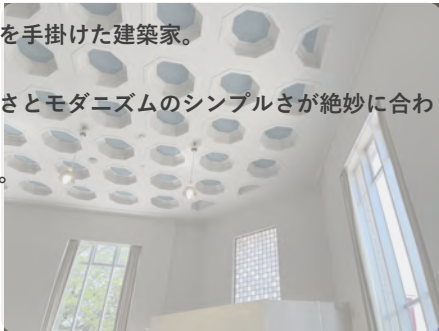
村野藤吾 / Tougo Murano

渡邊翁記念会館 (1937)・ヒストリア宇部 (1939)・宇部興産中

央研究所 (1952)・ANA クラウンプラザホテル宇部 (1983)

と様々な宇部の名建築を手掛けた建築家。

そのディテールの優美さとモダニズムのシンプルさが絶妙に合わさった空間が有名です。



04

ボタ山のない宇部

宇部は、鉱山で石炭業が盛んであったにもかかわらず、

「ボタ山」がない。

この山があった場所を、宇部興産がすべて工場地に使ったため、宇部にはぼた山が無いらしい。

02

常盤通り

宇部は、昔は砂州上の地形で、その海水が残されることで

320年前に常盤湖が誕生した。

そのときのお殿様が 常盤湖に、縄を張って道を作るよう指示し、そのできた道を「常盤通り」と呼ばれるようになった。

その後、戦後に S22 に人口 13 万人を 20 万人目指して整備をしていく戦災復興計画が起きた。

そこで 50m 道路を作ろうとなったときに、国からは宇部は空港を作ろうとしているのではということに怪しまれて国からの補助金が出なかった。しかし、炭鉱で財力を上げていた宇部は市の力だけで今の常盤通りを作り上げた。

05

ムベの木

地名の由来については、

- ① 海辺が転訛した説
- ② ムベ (トキワアケビ) が繁茂していたから

と二種類の説がある

